



**2023年3月期 第3四半期  
決算補足説明資料**

**2023年1月31日（火）**

**ウェーブロックホールディングス株式会社  
証券コード：7940  
（東証スタンダード市場）**

## ■ 売上高 16,538百万円（前年同期比+6.8%）

- マテリアルソリューション事業は、ホームセンター向け販売が低調に推移するも、原材料価格高騰に伴う売価転嫁値上げや、今期より連結に取り込んだ（株）エイゼンコーポレーションの売上高計上により前年同期比増
- アドバンステクノロジー事業は、主に自動車向け販売を行う金属調加飾フィルムが好調。仕入れ販売を行うディスプレイ用拡散板販売の不振をカバー

## ■ 営業利益 394百万円（前年同期比△31.1%）

- 原材料価格高騰に加え、エネルギーコストの上昇等により事業環境は極めて厳しい
- マテリアルソリューション事業は、原材料価格高騰に伴う売価転嫁値上げを継続的に行ったものの、コスト増加分すべての転嫁には至らず、前年同期比大幅減
- アドバンステクノロジー事業は金属調加飾フィルムの販売の好調と、一関工場の稼働停止に備えた備蓄製造により利益増加

## ■ 当期純利益 2,322百万円（前年同期比+288.8%）

- 第1四半期において、クリアネイト（株）（旧（株）ウェーブブロックインテリア）の株式譲渡により特別利益2,528百万円を計上。これにより同社の全株式の譲渡完了
- 第2四半期において保有資産売却の意思決定を行ったことに伴い、減損損失114百万円を計上

(単位：百万円)

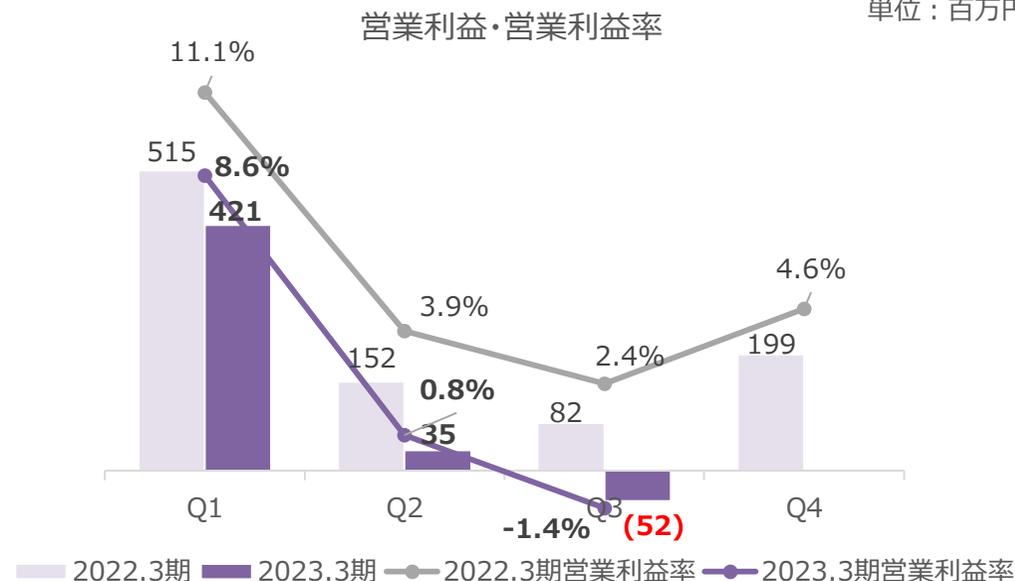
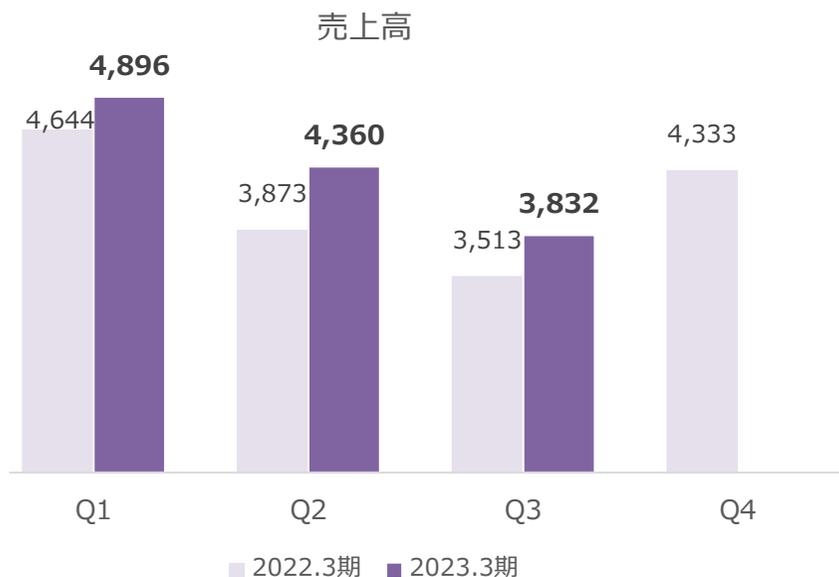
	2022年3月期 第3四半期累計 (実績)	2023年3月期 第3四半期累計 (実績)	前年同期比 増減率	2023年3月期 通期 (予想)	進捗率
売上高	15,480	16,538	+6.8%	24,400	67.8%
営業利益	572	394	△31.1%	590	66.9%
経常利益	792	666	△15.9%	710	93.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	597	2,322	+288.8%	2,310	100.5%
1株あたり 当期純利益(円) <sup>1</sup>	61.75	275.32	-	273.83	-

1. 発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2022年3月期第3四半期は9,673,749株、2023年3月期第3四半期は8,435,849株です。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第3四半期 (実績)	2023年3月期 第3四半期 (実績)	前年同期比 増減率	業績予想	進捗率
売上高	15,480	16,538	+6.8%	24,400	67.8%
マテリアルソリューション事業	12,031	13,089	+8.8%	19,500	67.1%
アドバンステクノロジー事業	3,470	3,469	△0.0%	4,900	70.8%
その他	△21	△21	-	-	-
営業利益	572	394	△31.1%	590	66.9%
マテリアルソリューション事業	750	404	△46.2%	890	45.4%
アドバンステクノロジー事業	306	470	+53.6%	390	120.6%
その他	△484	△479	-	-	-

単位：百万円



## リビングソリューション：

- ホームセンター向け販売は引き続き一昨年の巣ごもり需要からの反動減に加え、ホームセンター自体の客足が伸びず、売上高、利益ともに前年同期比減。今後は3月末からのシーズンインに向け注力

## ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション：

- 建設・仮設工事向けメッシュシートのOEM生産切り替え遅れや一部撤退により販売減となったものの、防音シートや、大型商業施設向けの防煙垂壁用高透明不燃シート販売の好調がカバー。原材料価格上昇分の売価転嫁遅れより利益は前年同期比減

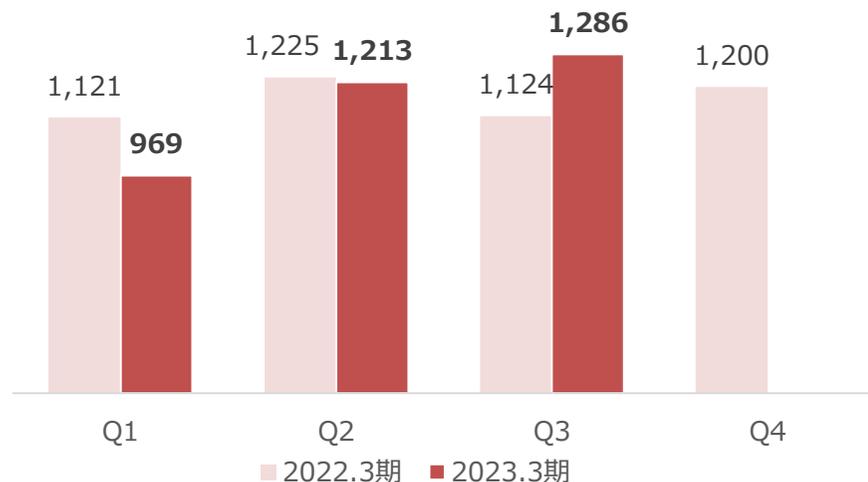
## パッケージングソリューション：

- ヨーグルト容器向け販売は堅調も、コンビニ弁当向け容器販売が回復せず生産効率低下。また、原材料価格上昇分の売価転嫁はできたものの、エネルギーコスト上昇等の影響も受け利益は前年同期比減

## アグリソリューション：

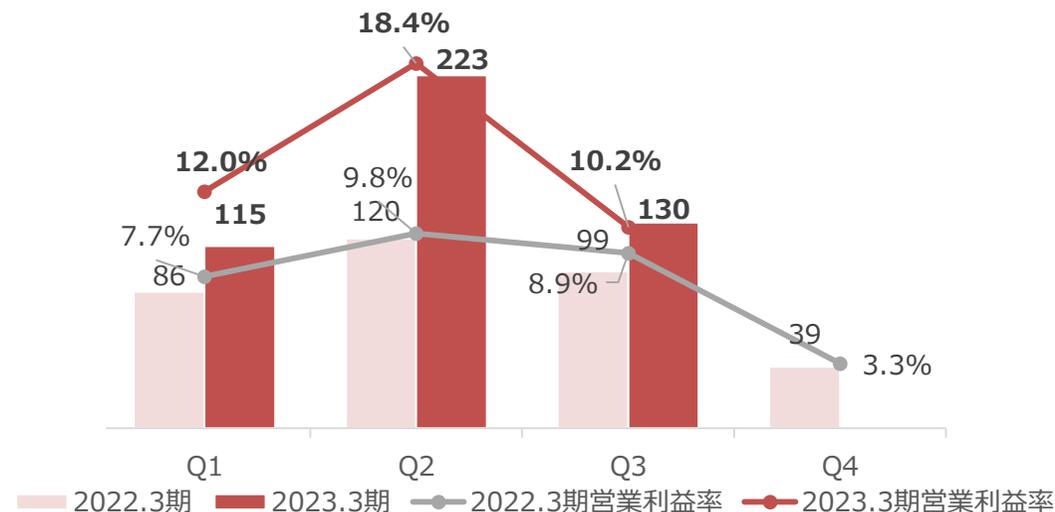
- 輸入資材である土壌改良剤や林業向け資材は好調に推移するも、エネルギーコスト上昇等により国内農業従事者の投資意欲減退傾向にあり、農業資材が低調に推移。利益では前年同期比減

売上高



営業利益・営業利益率

単位：百万円



## デコレーション&ディスプレイ：

- 自動車向け金属調加飾フィルム販売が好調に推移。北米自動車メーカーおよび北米EVメーカー向け採用車種は本格量産へと移行し、引き続き好調。加えてインド・東南アジアにおける二輪車向け販売も採用拡大により続伸した。上期低調だった国内メーカー向け販売は回復傾向
- 自動車向け内装ディスプレイ用途の高透明二層シートにおいては、先進運転支援システムの開発ツールとして期待されるVRヘッドセット用部材販売は好調に推移するも、自動車向け販売は半導体不足の影響を受け前年同期比減。一関工場移設に伴う工場稼働停止に備えた備蓄生産を11月中旬まで実施したことにより利益押し上げ。11月中旬以降は一関新工場立ち上げ対応等に移行。新工場稼働開始は来期第1四半期を予定

## その他：

- ディスプレイ用拡散板は一昨年からの巣ごもり需要の反動減等を受け売上高は大幅減。仕入れ販売のため利益への影響は些少だが、この売上高減少によりアドバンステクノロジー事業全体の売上高は前年とほぼ同額となった

- 自動車向け内装ディスプレイ用途の高透明二層シートの製造加工を行う既存工場（岩手県一関市）を、同市内にあるグループ会社所有の工場へと移設
- 延べ床面積は既存工場の2.5倍に拡張。現工場の生産設備の移設のため生産能力は変わらないものの、受注状況に応じて増強予定
- 稼働開始は来期（2024年3月期）第1四半期を予定



移設拡張した一関新工場

- 2022年10月31日公表の**通期業績予想を維持**
- 原材料価格の指標となる国産ナフサ価格は過去最高値を記録した第2四半期をピークに下降傾向にあるものの、原材料価格への反映にタイムラグがあること、また、エネルギーコスト高騰等を背景とする値上げにより原材料価格は依然として高止まりの状況にあり、厳しい事業環境が続く
- マテリアルソリューション事業はコスト増加分の売価転嫁に努めるほか、3月末からシーズンインとなるホームセンター向け販売に注力
- アドバンステクノロジー事業は第3四半期で期初予想営業利益を達成したものの、第4四半期は一関新工場への移設立ち上げ等によるコスト増加を見込む

(単位：百万円)

	2023年3月期通期 (予想)
売上高	24,400
営業利益	590
経常利益	710
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,310

本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。  
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。